

2025（令和7）年度 第6回 高井戸小学校運営協議会 議事録

日時・場所：2026（令和8）年1月24日（土）11：00～12：00

参加者：鬼澤、内藤、中島、蕨南、下河、伊勢（委員）

廣野、山田（事務局）

欠席者：蘆塚、秋山、和田、奥田

議事録担当：山田

配付資料：第6回 杉並区高井戸小学校運営協議会次第

学校調査アンケート結果

令和8年特別支援教室教育課程（閉会后、回収）

周年実行委員会への購入希望一覧

1 会長挨拶（鬼澤）

令和8年初めてのCS。今年もよろしくお願ひいたします。学校も年間の仕上げ、中学校に向けての取り組みが始まっている。前回は11月だったので改めて情報を共有していきたい。

2 学校長挨拶（伊勢）

3学期が無事にスタートしている。子どもたちも元気で通学している。が、6年生が受験に向けて欠席が多い。150周年では、児童がやり遂げたことを実感することができた。それが自信となり、代表委員会をはじめ、子どもたちが新たな取組に挑戦する姿が見られる。

3 協議・伝達事項

① 教育調査アンケートの結果について

<保護者の回答から>

肯定的な回答が多かった。児童が楽しんでいる、授業での学びが、生活改善につながっている、デジタル活用がなされている。一方で、特別支援教育に関する情報提供、心の問題への支援、いじめを許さない雰囲気の実感不足、については、評価が低い。

これらに対する、体制や取組について、積極的に保護者全体に情報提供できていないことが原因の一つと言える。個人に関する内容もあり対応について全てを伝えていくことは難しい。

・いじめに対する取組を大々的にアピールすることもあるが、実態との乖離が大きくなることがある。授業や生活指導など、教育の中で指導を重ねていく。（伊勢）

・いじめの概念が難しい。じゃれあいもいじめと判断されることもある。それを共通理解していく必要がある。（内藤）

・今日の授業を参観して、5年生の社会「情報」の取扱いから、メディアリテラシー等について理解して、実際に活用する内容であった。学んでいても、ゲームのようなソフトを使用すると、相手を傷つける言葉が行き交う状況見られた。児童は無意識に使ってしまっているようで、その様子から先生が「それがメディアリテラシーなのです。」と指導していた。このよう

な状況については、学校だけでなく家庭でも指導をしていかなければいけない。(下河)

・いじめと不登校は、中学校で多くなる傾向にある。いじめを見逃さないためにいじめの定義が変わり、いじめの認知件数が増加している状況にあるが、日々の人権教育や学級経営を地道に行うことが大事である。小学校段階で、いじめに加担することのないよう抑止力を身に着けることが大事。すぐに効果が出る方法はないので、指導を積み上げていくことが大切である。

(鬼澤)

<教員の回答から>

区では、働き方改革のため校務DXの推進をしている。今は、転換期で苦勞もある。未だ、時間を費やさなければならないことが多い状況がある。そこにメスを入れ、やるべきことを精査していかないといけない。(伊勢)

<児童の回答から>

いじめはいけないと自覚している回答が多い。タブレットの活用はできているが、扱い方については、課題もある。全体的に意欲的である。(廣野)

<CSの回答から>

非常に肯定的な回答が多かった。

② 特別支援教室の教育課程の承認について

順調な運営・指導ができているようなので、令和8年度も今年度ベースで進められるとよい。(鬼澤)

③ 周年実行委員会への備品等購入品の希望について

今年度については、実行委員会の承認があれば有効に活用してほしい。(鬼澤)

5年後、10年後の周年行事にも繰り越して、多くの児童に周年に関する行事を体験してほしいと思う。(内藤)

周年実行委員会にも内藤会長の思いを伝え、ご寄付いただいた協賛金の使い方について申し送りをしていただきたい。(ホームページ等で) 今後はCSの管理のもと、適切に管理していく必要がある。150周年で集めたご寄付をこれ以降も活用させていただけるよう周知していく必要がある。(鬼澤)

協賛していただいた方の思いを汲んで、児童のために活用していきたい。(内藤)

4 連絡事項 次回、第7回 2月20日(金) 16時30分～17時30分に開催。

2月2日(月)、14時より本校ランチルームにて、富士見丘小、富士見丘中、高井戸小の三校合同の学校運営協議を開催する。